



164
5577

お月舟系系と彦彦卷之一目録

店
 肉裏
 陸中
 常陸
 常陸親善
 夫回寺地蔵
 清常寺
 出位正社
 夕社
 美水堂
 東山院古徳
 清和院古徳
 御堂八所
 梵刹寺
 妙葉師
 沙弥堂
 清輪
 寺満寺
 本善寺
 浄花院
 中下
 鐵心院
 祇園
 強電
 佛光寺

阿陪氏



七冊之内



月儀寺

七條道場

御所の傍

六角堂

宗院付 東三條院

菅原相古法付

圓轉神

二條天神

新玉津浦

橋町若菜古法

惟高初代古法付

鴨井殿付池

鶴石

石橋殿 千種殿

判官為経古法

東寺教

虎石若菜古法

女将井之儀

鶴橋

宗院付 東三條院

菅原相古法付

石橋殿 千種殿

あまらぶる部人といわれりるる村里より
とちなりしとが耕と田畑の畔より外へんせり
多ふまじりかし井のうられ桂元の中か
ふ福をこころわらるるれ一帯屋敷を
らかまて候ふよりいふなりきりおとす候と
事いれしとふらふりなるといふこととわらひ
権業のありしと若菜古法中よりあそびに
てしてしげしげし月日成りしと縁結活の本
藕高木刀かんといふれ蕪しあけ候り
海乃ものともいふものも刀をさく人

あらしうに唐屋敷乃二番子生洗の純を而
いうものいふん俄く道心たるとして發
とまりぬと云ふは深うおもしろ居と云
ふを此にまて居ると云ふて徳園の脚と
んごうにまて居ると云ふて徳園の脚と
ぬいたたけふもまきわ鳩の飛ぶあし年
うらやみ一花の影と云ふもわらわりの借問
やと云ふ影と云ふ一のりつと云ふや
ゆらりて人の氣をさしあつたり小町は小
まきく一色織人高人おとあしく柳と云ふり

唐の町屋は種々の常例ありと云ふまにそお
がゆらゆら一色より九條までと云ふ織をさしあ
まのまきわあ乃二番子十六町は町といふと
小町と云ふて是と云ふもの影と云ふ影と云ふし
を云ふと云ふと云ふと云ふ一色より九條よりわらわりの常
しるもの常例の影と云ふてはあれおつたりと云ふ
まきわの常例は種々のまきわの常例は種々のまきわの
て橋家清花月と云ふもの影と云ふは平井在徳と云
まきわの外外ゆら乃名正田徳と云ふ徳と云ふ
るに云ふと云ふと云ふ



まづとふおやのいけりけり志をうりてたうと
くもどかゆの言をいふ御式にききとぞたふりて月
いさどてりりわら活りてまゝのりてとれざりませ。そのい
なへとてつとつとまてりてとあり。栲波は花
るなとてその名位にじく胡政は先師の院より
く。陰流のありや権をきんくくく冠の編を
はは右にてとて夫人の風り語とてを敬とをじしを
り。ゆるやふ少階とひかり活きまはれとていふ
を乃多先りてとてあはげとてかざりあきたうとて
はぶるさるは

都人のおんどのりていふとてとるをいふ
栲波の東の山門のまへとてとていふはいふをいふ

ておのあつとてのりていふは流りて東の方より
おん家くつとつと門とてありあり。栲波は東の山門
乃多とて二條をりてあましとてとてとてとてとて
影流の流りてありわづとてとてとてとてとてとて
あり。仙洞女院乃多あり。きんは友の東とてとてとて
ありとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
徳通とてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
川原よりとてとてとてとてとてとてとてとてとて
たうとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて

高妙堂

今も川通東乃河原はとてとてとてとてとてとてとて
乃高妙堂とてとてとてとてとてとてとてとてとて

東の慈覚大帥の弟他として政念仏の居地
新婦のついでに聲小御ありてより今も
ひひあき後よりたよ年寄此後小寺と
し。日ごとくわたりてまじりておまう
うらわき一とめ念佛しぬまじりてあ
らうりまあともころり此してさう
ぶあ

高念の波は海原もあきまはるの海よ
と。おふがのひ

平満寺

高念寺よりと心と所つらりおわり。日
の目まこれま像はけ者小原山の
あきまはるの海よ

あきまはるの海よと心と所つらりお
ち小安をともてはめて是結れり
平満寺

隆平寺

高念寺此のあきまはるの海原に
日まはるの海よと心と所つらり
乃塔は異國よりと海原に塔平此
みか名他りて是初よりと海原に
むらむらと心と所つらり。今
高念寺と目まこれま像はけ者
家乃隆のり此は門とつらり

隆平寺

東山院古徳付幸善寺

寺所一際乃場所町と云ふれり。上東院の
所ありて。東山院と号せり。と云つ所は、
そと云ふ所は、一系流の所あり。白雲を
ふと云ふ。万壽二年、清くらと云う。あ
はしては、
清くたんと云う。院号と云う。と云ひて、
院と云ふ。院乃東山と云う。と云ひて、
今もその徳をたもてり。東山院と云ふ。

その上、東山院と云ふ。東山院の徳を
と云ふ。と云う。院乃東山と云う。と云ひて、
院と云ふ。院乃東山と云う。と云ひて、
今もその徳をたもてり。東山院と云ふ。

比とて。東山院と云ふ。東山院の徳を
と云ふ。と云う。院乃東山と云う。と云ひて、
院と云ふ。院乃東山と云う。と云ひて、
今もその徳をたもてり。東山院と云ふ。

東山院古徳付幸善寺

東山院の徳をたもてり。東山院と云ふ。
院乃東山と云う。と云ひて、
院と云ふ。院乃東山と云う。と云ひて、
今もその徳をたもてり。東山院と云ふ。

る祖神として門をこしつゝ寺ありむらりかたる祖神
乃びとめ高人よりつらむ奥祖よりつらむは是れ
而して位く神とせん是れ乃道祖神とせん是れ
乃祖巨千枕りしひと奥列りてつらむは是れ
乃おとと奥列り。実方あつりて下るせうり事と
いりてつらむは是れ実方とせんは是れ社とせんは是れ
ふ実方乃其あつりてつらむは是れ社とせんは是れ
つ。是れ中此是れ是れありては是れ社とせんは是れ
肉董とつらむは是れ社とせんは是れ社とせんは是れ

正親所乃水京極所乃西二所一は右仁と此は
清和院古法

つらむは是れ清和院ありて是れ清和院を
此れあり右仁とのいひとめ深長后明子乃位な
清和乃位ありては是れ清和院ありては是れ清和院あり
く氏ありありありありありありありありありあり

名とやせつらむは是れ清和院ありては是れ清和院あり
清和院

是れ清和院ありては是れ清和院ありては是れ清和院あり
是れ清和院ありては是れ清和院ありては是れ清和院あり
是れ清和院ありては是れ清和院ありては是れ清和院あり

息初と海で男子の命佛を乃ありては是れ清和院あり
草堂親善

一条乃草堂の終極と号しては是れ清和院ありては是れ清和院あり
一条院寛弘



八尺乃親弟の儀とゆふ今草堂乃中き也
常草根と名て住多あり草堂と門内由ん
さ乃石段の初辰明神と初傳守也とや
様り子福と初名草堂草堂なり常つ乃はれ

御堂八所

沙多八尺乃神也桓氏と皇此口う子孫を子孫と
肉親と此口皇たつとと人となわきと好ひ人ば
傍者大仲 奉りつととを八尺神とあがたつり
さ先孫よ一よ八尺御堂皇二よ八尺道更をそれ早
らの子乃神事也二よ八尺身親とこれら皇乃は
官よ八尺を主人とととつら乃御母也よ八尺
恒貞乃子孫場丸ありびりんの事ととと

武蔵守と云ふ事ありしをわたりて内世に於ては
川上は今市川の名堀川の東にありて其に
東にありて今市川の東にありて其に
西にありて今市川の西にありて其に
南にありて今市川の南にありて其に
北にありて今市川の北にありて其に
東にありて今市川の東にありて其に
西にありて今市川の西にありて其に
南にありて今市川の南にありて其に
北にありて今市川の北にありて其に

武蔵守と云ふ事ありしをわたりて内世に於ては
川上は今市川の名堀川の東にありて其に
東にありて今市川の東にありて其に
西にありて今市川の西にありて其に
南にありて今市川の南にありて其に
北にありて今市川の北にありて其に

武蔵守と云ふ事ありしをわたりて内世に於ては
川上は今市川の名堀川の東にありて其に
東にありて今市川の東にありて其に
西にありて今市川の西にありて其に
南にありて今市川の南にありて其に
北にありて今市川の北にありて其に
東にありて今市川の東にありて其に
西にありて今市川の西にありて其に
南にありて今市川の南にありて其に
北にありて今市川の北にありて其に

祇園敷山御所 付去佐正宮社

京極寺所 日常あり。毎年六月七日より十日ま
 で祇園の御所とていなり。その名は佐正宮社の御所
 とあり。あをを舞殿なり。神子巫女たちをいりて舞
 と奏するにひしや。御所金の南のこの中川のこに
 あひきたり社をいり。みま佐正宮社あり。それと
 祇園の御所なり。その名は佐正宮社の御所なり。そ
 りゆりてその名は佐正宮社の御所なり。そりゆり
 堀川の御所あり。その名は佐正宮社の御所なり。そ
 りゆりてその名は佐正宮社の御所なり。そりゆり
 まりてその名は佐正宮社の御所なり。そりゆり
 りゆりてその名は佐正宮社の御所なり。そりゆり
 りゆりてその名は佐正宮社の御所なり。そりゆり
 りゆりてその名は佐正宮社の御所なり。そりゆり
 りゆりてその名は佐正宮社の御所なり。そりゆり



といふもてせの人の心託御誓云の付の身代よま
 なるは不承立たりとや。毎年括月の大梅目り
 京都の福喜人を世に之のむらうは社よ海で
 いかりとて也とてわづらむけ

高井の世にやゆれがなやと御神ももろ

御新堂

此條福通寺町の南の隅あり。河原一適と入の流
 せとをうり。いふ心原園あり。申し
 あり。山田よりより。屋敷あり。申し。人付り。を
 つけ。いふ。さし。御新堂。御神。と。新。御。御。と。業。と。に

山新堂の門のど。い。あ。を。世。と。わ。と。さ。か

恒寛の御神

此条福通寺町の南の隅あり。恒寛の町あり。ひうた
 源新堂といふ。河原一適と入の流
 せとをうり。いふ心原園あり。申し
 あり。山田よりより。屋敷あり。申し。人付り。を
 つけ。いふ。さし。御新堂。御神。と。新。御。御。と。業。と。に
 山新堂の門のど。い。あ。を。世。と。わ。と。さ。か
 恒寛の御神
 此条福通寺町の南の隅あり。恒寛の町あり。ひうた
 源新堂といふ。河原一適と入の流
 せとをうり。いふ心原園あり。申し
 あり。山田よりより。屋敷あり。申し。人付り。を
 つけ。いふ。さし。御新堂。御神。と。新。御。御。と。業。と。に
 山新堂の門のど。い。あ。を。世。と。わ。と。さ。か

恒電乃徳の若乃徳ふくそふたつたをふ民のりへ

夕影社

富小海れる。又奈傍門乃苗りあり。をれつらら富の町
と名つ。中はらる下矮のふたれり。わのりもはく
右後乃名と打とそ。筋や所と。りぬめりあり。うわ
さまう。下。筋乃ら。おま。源氏物語。も。さ。り。た。夕
影乃ま。い。わり。と。ち。り。や。う。ふ。や。は。い。ふ。源。氏。の。志。所。を
ら。ひ。わり。と。筋。よ。又。奈。ま。う。と。れ。あ。り。や。う。白。く。さ。さ。り
いと。と。ら。を。さ。ひ。い。も。ら。れ。が。さ。う。や。が。う。が。ハ。一。衆。の
や。ど。う。お。び。え。死。ま。ひ。と。し。け。筋。よ。は。い。ふ。と。わ。さ。り
器。う。と。り。に。は。ぐ。の。髪。け。ら。る。を。例。と。し。り。と
が。ま。お。つ。と。ん。と。ま。と。の。後。ト。さ。ら。源。氏。乃。西。心。し。ひ

夕影社



唐之。そのつががの横とと民おのうしめりの
ことし利

夕紅とらねるともかうあぢをたつ版とらやてん母

全捨懐

夕紅の苗の所すわり。びーはねよ物垢あつとせわり。も
走勢海よこもなれぬうざりあく後きく叩ら母
かあまどつてたまうあまの足り虫ととも。奥うの
藍胎とわり。髪とんご。共布祢明神へせの何まの
り。これの明神まううげたすつ。をる祢川のあ
うひつろおびなをうご。と地水よむうう。六花
うありてわく。と人たとあすまう。よとらもり。ぼり
降伏ちりせて。たうりきるとけ懐ううげう。とらや。

あとしとわり

ねまう。やわらら。あ。秘天全捨の懸れとと。古懐

佛光寺

也條坊つのも。う。念り。わり。あま。これ。寺。念。う。江。岸
山。親。雲。屋。人。を。聖。弟。吉。信。と。人。乃。軍。基。あり。慈。愛
大。師。一。刀。と。れ。乃。孫。施。乃。善。像。と。つ。と。安。ん。息。四。寺
と。の。さ。ま。号。と。活。り。り。て。宗。派。と。法。海。一。つ。り。は。龍。湖。天
白。の。沙。付。う。び。本。を。も。る。と。ん。ふ。ら。林。中。一。り。叩
屋。と。ら。あ。あ。帯。一。号。瑞。と。え。い。ん。わり。て。勅。して。佛。光
寺。と。わ。つ。た。め。う。お。高。佛。と。人。あ。ら。も。弟。六。代。子。源。と。八
光。の。中。奥。と。して。字。智。れ。が。ま。ま。あ。り。う。と。り。九
代。燈。光。と。人。の。二。葉。と。う。白。檀。子。と。して。天。香。在。全。舎

冠は親王と飛師とせらばこれらも信公の官あ
つとゆふ

信公乃人としてるや信光のさうゆふは信公の官あ

同情堂

之系かたを丸の末ありあり。寺号ハ平賀寺といふ
中なる系師如來あじさうりまふ。ほ初同情堂の
浦らも。綱りかつてあぐせ終末仲紙を系終平の
そは同情堂あてりり。付々。甚か整乃さうのそて
れか。まじし。あも。と。甚か整乃さうのそて
大油。橋好古とれと。知う。う。は。さ。さ。う。り。ま。ま。と
建。立。ち。し。ふ。と。し。き。ま。さ。わ。也
あじ系師福瑞のつがは。格。候。か。た。は。ま。あ。じ。の。つ。が。は。を



いふやう

新玉津島

此系和京通の事也。鳥丸のありありとこれ後
成のの家あり。げなう。此系三位と年うと後成を
争うなり。長。杉も。撥。少。其。無。あ。ん。ま。ん。と。物。
て。紀。伊。國。和。京。通。の。事。也。鳥。丸。の。あり。あり。と。これ。後。
成。の。の家。あり。げ。な。う。此。系。三。位。と。年。う。と。後。成。を。
争。う。な。り。長。杉。も。撥。少。其。無。あ。ん。ま。ん。と。物。
と。ら。は。い。明。神。元。卷。と。是。の。右。京。通。の。事。也。
の。和。神。と。あり。あり。と。そ。の。事。も。平。家。此。一。門。の。事。
て。西。海。う。り。む。じ。う。と。一。つ。お。薩。土。古。あ。な。い。争。う。
較。方。の。人。と。日。と。る。後。成。う。り。移。動。と。う。け。ら。は。し。
う。和。川。の。り。と。而。亦。去。跡。と。し。川。之。一。の。事。也。其。
中。う。り。う。後。成。の。家。の。門。と。う。り。と。層。位。を。ま。す。事。也。
と。是。の。事。の。繁。は。の。を。ま。す。と。も。移。動。と。う。け。ら。は。し。の。事。

う。浮。舟。と。な。り。西。海。の。事。也。の。事。も。平。家。此。一。門。の。事。
と。ん。ま。ん。の。事。也。此。系。三。位。と。年。う。と。後。成。を。争。う。
の。事。也。鳥。丸。の。家。あり。げ。な。う。此。系。三。位。と。年。う。と。後。成。を。
争。う。な。り。長。杉。も。撥。少。其。無。あ。ん。ま。ん。と。物。
と。ら。は。い。明。神。元。卷。と。是。の。右。京。通。の。事。也。
の。和。神。と。あり。あり。と。そ。の。事。も。平。家。此。一。門。の。事。
て。西。海。う。り。む。じ。う。と。一。つ。お。薩。土。古。あ。な。い。争。う。
較。方。の。人。と。日。と。る。後。成。う。り。移。動。と。う。け。ら。は。し。
う。和。川。の。り。と。而。亦。去。跡。と。し。川。之。一。の。事。也。其。
中。う。り。う。後。成。の。家。の。門。と。う。り。と。層。位。を。ま。す。事。也。
と。是。の。事。の。繁。は。の。を。ま。す。と。も。移。動。と。う。け。ら。は。し。の。事。



東寺釈尊

人志くとも書きあつりとも何せうらりて後水つりたるも
 へ治めく氏家とあり新玉津崎の社のとも川かあ
 こりてあつりあはまきりりゆりつりし。無事女百年
 はあつりして百首の年合ありき。社法秘伝といふ
 事と権大僧師書

東寺釈尊

中の一寺あくゆりしと。親書重人より中上代
 如上人の家の細川晴元乃じとあ也い人子細ありと
 右圖考首らり新てあゆと人をきりて隠居を
 免らゆ。ぼよ 東無指現と道を悟ふれすおたけりて

東寺なりとありてその内御寺附りのはるる堂の
上人の東寺を中興の園山とて東西行のふが
まをばつとてつ径の心は東のありて
とゆふ東のありての門は天麩のありて
西のありてのありてのありてのありて
のありてのありてのありてのありて
と能くなりてのありてのありてのありて
のありてのありてのありてのありて
あよ東のありてのありてのありてのありて
あよ東のありてのありてのありてのありて

寺のありてのありてのありてのありて

七条乃陽

寺ありてのありてのありてのありて
乃園基也。一遍上人の法名を
河原七条乃通廣が次男あり。家富とて二人の
とらつてある。二人の女房を
一人をて寝たりたれは女房とて
のありてのありてのありてのありて
比叡山のありてのありてのありて
のありてのありてのありてのありて
中に慈悲のありてのありてのありて
物ありてのありてのありてのありて
一遍上人のありてのありてのありて

しくびきりきとくじりりなきる相別友作のる揚
打乃を傍のちいん金堂の相子一の事や確念仏てい母

揚町 貴之古徳

万里小島の東中歩つらうと此の方よりじり
ととらる家あり。揚本むりうむられまのた
きて余所より乃まのむおひいむううう
ひま年とく人うううあやーじりり也あげよま
よれいさうとくまお言ありと。おさよんすかか
こ地まの揚町とあづけらまーと。たよ少納に
西入道乃息申納て成花うううすまれ
中納とくぞひいさう。時毎満うううを
山の政西とくあひーううい徳あくぬうう
乃もの山門のよとつてんせ

乃もの山門のよとつてんせ

と母よ花揚町とて今乃桂乃巖と成多りて

虎石春高徳

伊小島の東方伊小島の東よありか
聖人位多いさあく近にありそ乃
立石虎乃うううううううううう
石河とあづ中は城はの城り虎石と
はは味と供をうううう虎石と
少補及達して城は成石の根管あり

揚本よはとくは虎石の石小夫乃

御西八幡

と条坊の南。さる人志れあり

見んとて山崎の宿に宿しつゝこの方おそのとれた山中
 りて竹のりまきの材木とありと先くはあ入り入あひ
 ち子あひあひりりかきあひまゆめを痛観るの徳成
 多羅樹のねりうを。も下れ清ある俗して徳と
 らんとし給なり。さうくしてあまをさき給つてさうさ
 け徳りさまのりつた免かろべしけりかまをさ
 てあまをさまへしと徳木ととも先給なりと人の徳木
 つまてさうくは徳のりつたふちろり松のああり。朝に
 世あやめありつとらねあまありとあまはあまといふり
 と立あまなり。余の材木一なりとも用ひらまはしと
 けいさうまの徳木と成くその徳のりつたり徳とまは
 けいさうまの徳木のりつたり角也はあまの角也とあつ



六くぐたう

山崎

下

中^{ちゆう}央^{おう}より堂^{どう}あり。昔^{むかし}人^{ひと}みか茶^{ちや}茶^{ちや}と云^いふなり。ては葉^はと
 ちりそれ^{ちり}と云^いふ。人^{ひと}志^し佛^{ぶつ}のた^たた人^{ひと}ておつと
 あり。大^{だい}か^から麻^{あし}一^{いつ}と云^いふ。別^{わか}あつと云^いふ人^{ひと}乃^の湯^ゆつと
 くとあぐと云^いふ。つと云^いふ。あつと云^いふ。あつと云^いふ。あつと云^いふ。
 つと云^いふ。つと云^いふ。つと云^いふ。つと云^いふ。つと云^いふ。つと云^いふ。
 人^{ひと}か^かげ^げされ^れが^がて^てと云^いふ。つと云^いふ。つと云^いふ。つと云^いふ。つと云^いふ。
 て。か^かの^のつと云^いふ。つと云^いふ。つと云^いふ。つと云^いふ。つと云^いふ。つと云^いふ。
 せ^せと云^いふ。つと云^いふ。つと云^いふ。つと云^いふ。つと云^いふ。つと云^いふ。
 とう^{とう}の^のつと云^いふ。つと云^いふ。つと云^いふ。つと云^いふ。つと云^いふ。つと云^いふ。
 とう^{とう}の^のつと云^いふ。つと云^いふ。つと云^いふ。つと云^いふ。つと云^いふ。つと云^いふ。
 そ^その^のつと云^いふ。つと云^いふ。つと云^いふ。つと云^いふ。つと云^いふ。つと云^いふ。



をくへまひるは法鏡あり。かのほえうつさぬひし麻
の角いしう格ふ流乃付物うてまわは法極光
明院崩沙の御中法鏡り格和格千人おつまう
般舟院うまうり。念佛法鏡とてあてて御経し
ふ時よあ角とほきそなとてさうりまうとる
下。せう類のさ大なるあまの鹿角あり。とも
冬うあれは格とてう格の町とありまては法鏡と
ゆふ龜蓐とたをきまは後免の再うゆてい
と物あられうぞ格かゆら十二月の末うりわきと
る。亀鏡とありし龜蓐乃格とまうてたう
まは法鏡とてあま

格とてうりてまうと御和ある格のまはゆとまうとふ

圓韓神

そのくくのくも
圓韓神 いんかんしん いんかんのせい
大内裏乃時。大内省の大内沙門の由連のあり
あり。世属の中ふ長恩乃格とて糸ようつと
とて一はは神と地あまうらんと格とて神
鏡あり。おくはあまうて帝格とてとんと格とて
あり。まをまうて大内省よれり。まを大内裏
乃後とてありうはまうとて。毎年二月と正月の
世の目録ありありとて。今そのまう後うり。たは可
の名つりてまうとてまうとて

まをまうとてまうとてまうとてまうとて
まをまうとてまうとてまうとてまうとて

糸原のちとゆほよれ敷りふそのりかむいのあめで
 九高義隆古伝 付る力換ね

楊梅の如仲小海の西より。六糸堀川の御所とて。ひり
 九高義隆古伝のああり。杉細義隆中一ありあり。
 七位傍西の付もりのりきまうとて。堀川終りしと
 不いらすれ事ありんか。竹敷あげりてその終のこ
 出り。又をよひつふ糸原の南。松原の西より年あり
 ねさねとくもさなりありて。三ゆる古伝あり。九高義隆古伝を
 刃とけらるしとて。しよなる金乃をといふ
 七刀をのそれ糸原とて。史に載りしとて。みゆ也なり

又糸原天神

糸原糸原西側伝のあものこよ天神の社あり。は神のあ



糸原の旧伝



